

**決算説明資料
(2013年度)**

2014年 5月 30日

 **株式会社 重松製作所**

2013年度 決算概要

2013年度の総括

- 当年度のわが国の経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策の効果を背景に、円安や株高が進むとともに、企業収益の改善や個人消費の増加など、景気は緩やかな回復傾向で推移しました。その一方で、新興国経済の減速懸念や原材料価格の上昇、消費税率引き上げの影響など、景気の先行きは依然として不透明感が拭えない状況でした。
- このような経済環境の中、原子力発電所向け呼吸用保護具の受注の一段落に加え、民間製造業からの受注も総じて低調だったこともあり、年度を通じた呼吸用保護具全般の受注は、前年度比わずかながら減少の水準で推移しました。この結果、売上高は前年度比1.3%減の91億20百万円となりました。
- 一方、利益面では、受注の微減に対応して、船引・埼玉両工場ともに期初から生産効率の維持・向上に注力するとともに、第4四半期には製品・商品ともに供給体制の強化に努めたことから、製品原価率・商品原価率はともに前年度比で改善した結果、売上総利益は前年度比3.7%増の28億45百万円となりました。また、販売費及び一般管理費は、期初からの積極的な新製品の開発・拡販活動による人件費・諸経費増もあり、前年度比2.9%増の26億44百万円となりました。
- 以上のことから、営業利益は2億1百万円（前年度比16.3%増）、経常利益は1億84百万円（前年度比15.9%増）、当期純利益は80百万円（前年度比50.0%増）となりました。

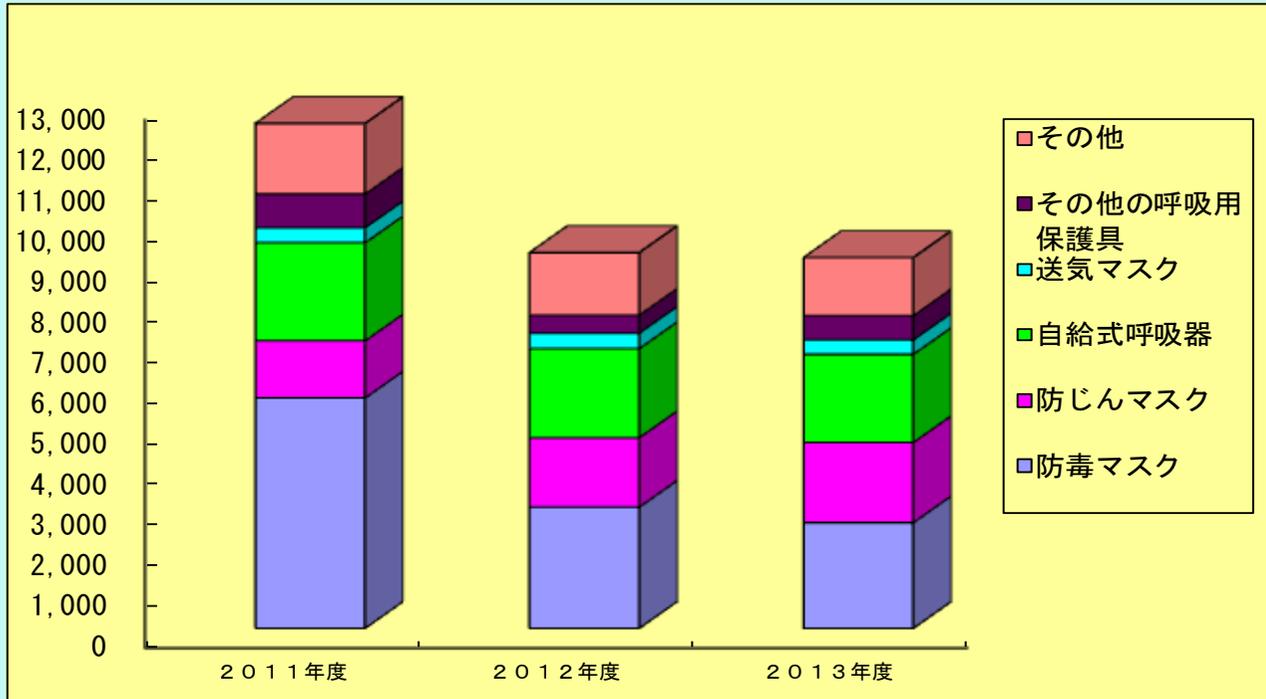
2013年度 損益の状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2011年度	2012年度	2013年度		
			実績	前々期比増減	前期比増減
売上高	12,419.0	9,241.0	9,119.7	△ 3,299.3	△ 121.4
製品製造原価	5,127.1	4,053.4	3,908.7	△ 1,218.4	△ 144.7
商品原価	2,734.4	2,445.0	2,366.4	△ 368.0	△ 78.6
売上原価	7,861.5	6,498.4	6,275.1	△ 1,586.4	△ 223.3
売上総利益	4,557.5	2,742.6	2,844.6	△ 1,712.9	102.0
販売費及び一般管理費	2,954.4	2,569.7	2,643.6	△ 310.9	73.8
営業利益	1,603.1	172.9	201.0	△ 1,402.1	28.1
営業外収益	73.2	76.2	76.7	3.5	0.4
営業外費用	106.6	90.4	93.9	△ 12.7	3.4
経常利益	1,569.7	158.7	183.8	△ 1,385.9	25.1
特別利益	1,137.8	0.0	0.0	△ 1,137.8	0.0
特別損失	395.8	20.4	15.7	△ 380.1	△ 4.7
税引前当期純利益	2,311.6	138.3	168.1	△ 2,143.5	29.8
法人税等	792.1	31.9	11.1	△ 781.0	△ 20.8
法人税等調整額	111.1	52.8	76.6	△ 34.5	23.8
当期純利益	1,408.4	53.6	80.4	△ 1,328.0	26.8

セグメント別売上高推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

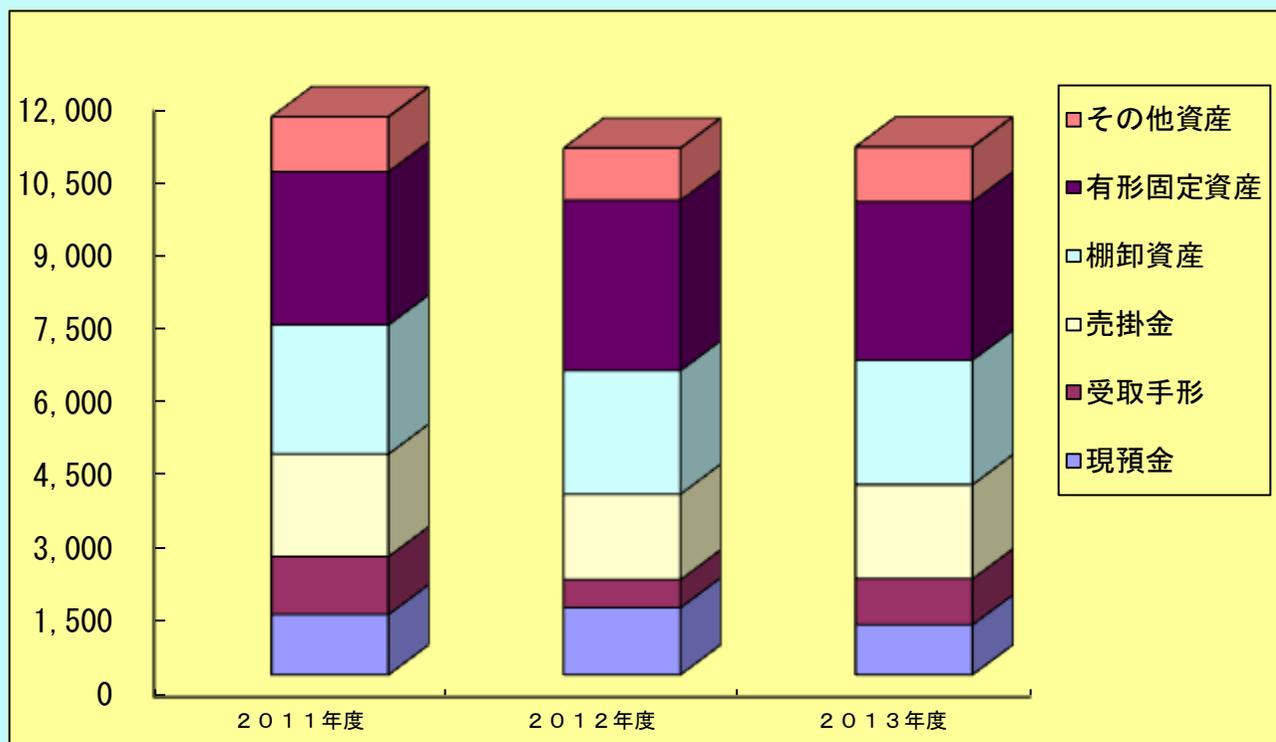
	2011年度	2012年度	2013年度
防毒マスク	5,666.1	2,981.0	2,598.8
防じんマスク	1,406.5	1,708.8	1,974.4
自給式呼吸器	2,413.4	2,190.9	2,165.8
送気マスク	370.1	380.4	358.0
その他の呼吸用保護具	827.1	444.4	595.3
その他	1,735.8	1,535.4	1,427.4
合計	12,419.0	9,241.0	9,119.7

当年度の特徴

- ① 当年度のわが国の経済は、アベノミクス効果による緩やかな景気回復の一方で、新興国経済の減速や消費税率引き上げの影響等、景気は依然として先行き不透明な状況で推移しました。
- ② このような環境の中、原子力発電所向け需要や民間製造業からの受注が、年度を通して低調だったこともあり、売上高は、前年度比1億21百万円の減収となりました。
- ③ 主要品目別では、防毒マスクが、前年度比3億82百万円の減少、防じんマスクは2億66百万円の増加となりました。
- ④ 前年度比で、自給式呼吸器は25百万円減少し、送気マスクも微減となりました。一方、上記以外の主要品目は、合計で43百万円増加しました。

主要資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2011年度	2012年度	2013年度
現預金	1,232.5	1,372.2	1,022.2
受取手形	1,186.3	573.6	941.0
売掛金	2,097.5	1,749.5	1,925.5
棚卸資産	2,642.3	2,525.8	2,546.8
有形固定資産	3,132.1	3,482.8	3,241.7
その他資産	1,121.2	1,067.7	1,119.2
合計	11,411.9	10,771.6	10,796.4

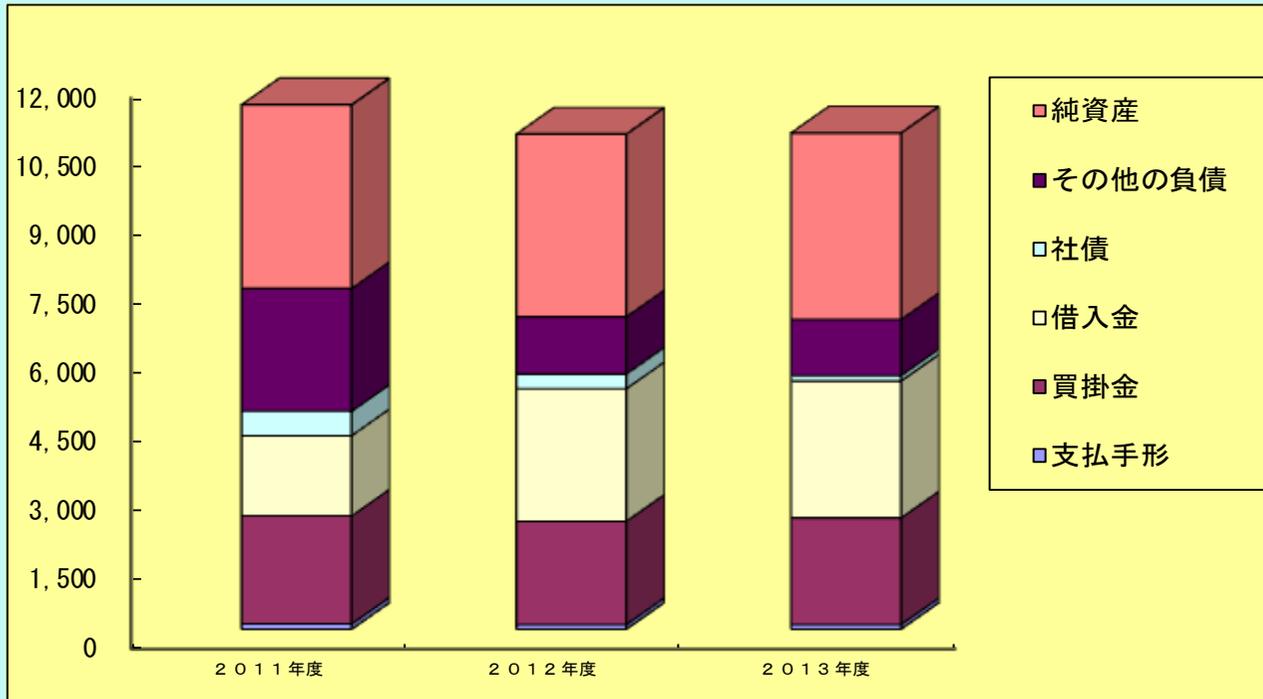
注：本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は、簿外のため含まれていません。

当年度の特徴

- ① 現預金は、期末の短期借入金返済額を増やしたこともあり、前年度末比で3億50百万円減少しました。
- ② 売上債権（受取手形＋売掛金）残高は、第4四半期の売上増を受け、5億43百万円の増加となりました。
- ③ 棚卸資産は、製品・商品及び材料が増加、仕掛品は減少し、全体では21百万円の増加となりました。
- ④ 有形固定資産残高は、減価償却の進捗等により2億41百万円減少しました。
- ⑤ 株価の回復を受け、投資有価証券は1億円以上増加し、その他資産全体では52百万円増加しました。

主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

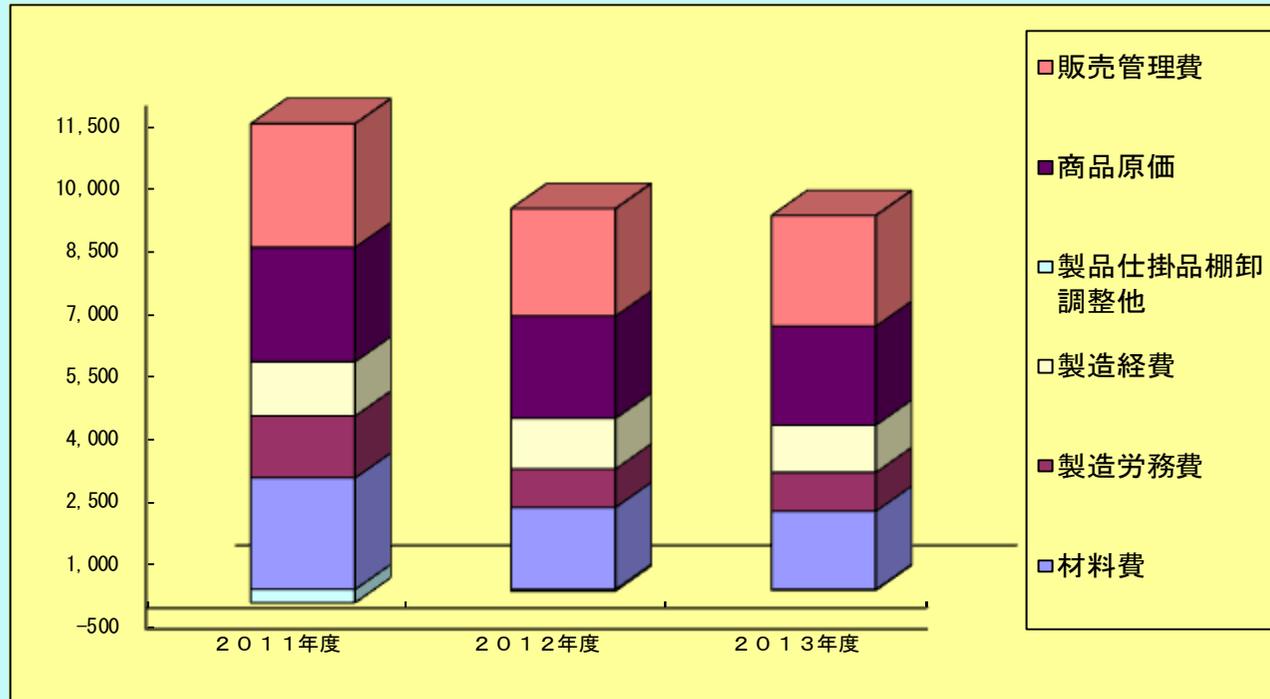
	2011年度	2012年度	2013年度
支払手形	117.3	102.2	103.5
買掛金	2,350.6	2,247.9	2,319.7
借入金	1,746.8	2,884.8	2,976.5
社債	529.6	318.3	120.0
その他の負債	2,671.7	1,244.6	1,222.1
純資産	3,995.9	3,973.9	4,054.5
合計	11,411.9	10,771.6	10,796.4

当年度の特徴

- ① 支払債務（支払手形＋買掛金）残高は、第4四半期の製品・商品の供給力強化を図ったことから、前年度末比では73百万円増加しました。
- ② 借入金及び社債の残高は、期中に年度資金を調達しましたが、約定返済及び期末の短期借入金返済により、前年度末比では1億7百万円減少しました。
- ③ その他の負債は、リース債務、繰延税金負債等が増加し、未払費用、賞与引当金等が減少した結果、全体では、前年度末比で22百万円減少しました。
- ④ 純資産の残高は、前年度末比で81百万円増の40億54百万円となりました。

売上原価・販売管理費推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

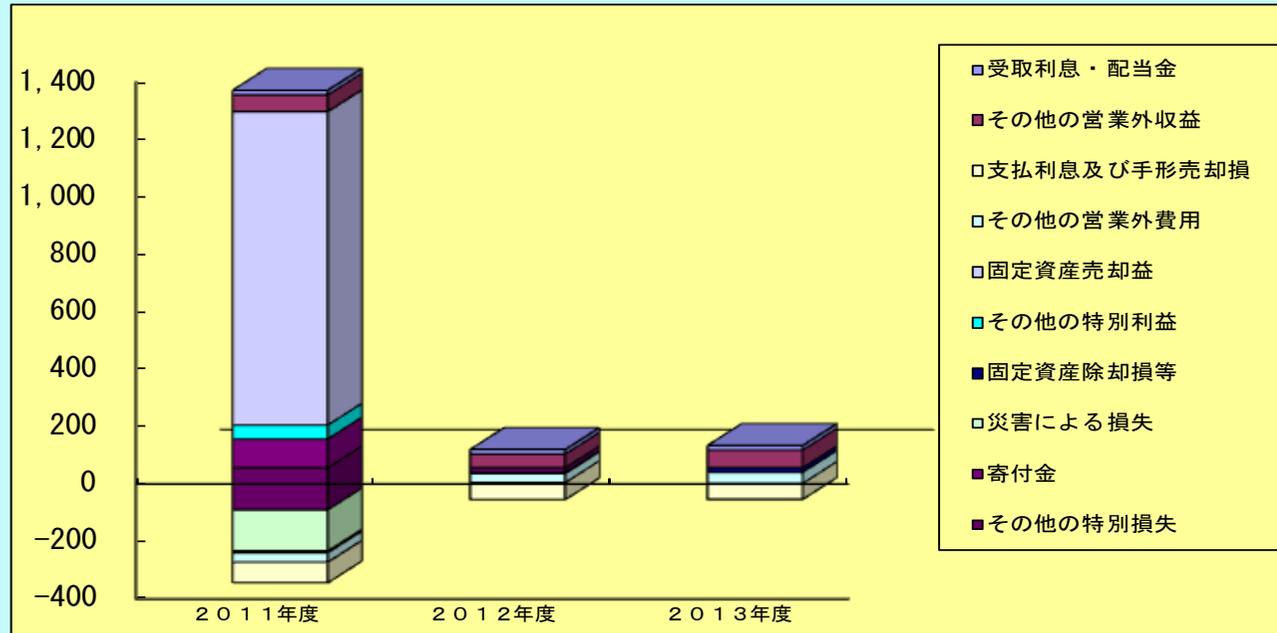
	2011年度	2012年度	2013年度
材料費	2,664.4	1,960.1	1,870.6
製造労務費	1,481.7	919.3	925.7
製造経費	1,297.3	1,209.7	1,131.1
製品仕掛品棚卸調整他	△ 316.3	△ 35.6	△ 18.7
商品原価	2,734.4	2,445.0	2,366.4
販売管理費	2,954.4	2,569.7	2,643.6
合計	10,815.9	9,068.2	8,918.7

当年度の特徴

- ① 製造部門は、期初から生産効率の維持向上に注力したこともあり、製品原価率は前年度比で1.7%改善しました。
 - ・材料費は、前年度比では89百万円減少し、2010年度以前の水準にほぼ戻りました。
 - ・製造労務費は、ほぼ前年度並みの水準を維持しました。
 - ・製造経費は、埼玉新工場が前年度に竣工したことに伴う諸経費減もあり、前年度比では79百万円の減少となりました。
- ② 商品原価は、効率的な商品仕入に注力したことから、前年度比で79百万円の減少となりました。
- ③ 販売費及び一般管理費は、期初から積極的な新製品の開発・拡販活動の推進による人件費・諸経費増が避けられず、前年度比で74百万円の増加となりました。

営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

当年度の特徴

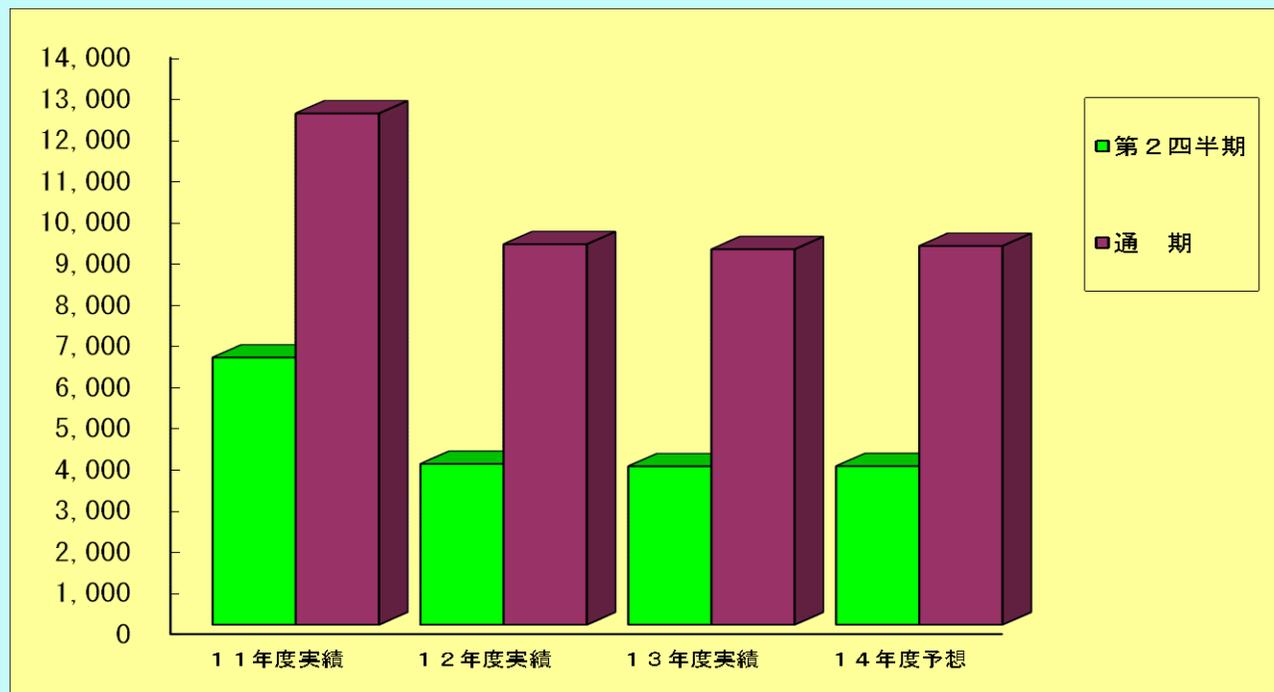
- ① 受取利息・受取配当金は、前年度比で減少、その他の営業外収益は、前年度比で増加となりました。
- ② 引き続き資金調達コストの削減を図ったことから、支払利息及び手形売却損の残高は前年度比で減少しました。
- ③ 前年度に引き続き当年度も、固定資産売却益はありません。
- ④ 特別損失については、固定資産除却損のみで、その他の特別損失はありません。

	2011年度	2012年度	2013年度
営業外			
損益			
受取利息・配当金	15.8	29.3	15.5
その他の営業外収益	57.3	47.0	61.2
支払利息及び手形売却損	△ 74.4	△ 59.3	△ 55.4
その他の営業外費用	△ 32.1	△ 31.2	△ 38.5
営業外損益合計	△ 33.4	△ 14.2	△ 17.2
特別			
損益			
固定資産売却益	1,089.5	0.0	0.0
その他の特別利益	48.3	0.0	0.0
固定資産除却損等	△ 6.5	△ 3.9	△ 15.7
災害による損失	△ 143.0	0.0	0.0
寄付金	△ 100.0	0.0	0.0
その他の特別損失	△ 146.3	△ 16.5	0.0
特別損益合計	741.9	△ 20.4	△ 15.7

2014年度 業績予想

2014年度の売上予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点未満四捨五入

	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度予想
第2四半期	6,489	3,905	3,847	3,850
通期	12,419	9,241	9,120	9,200

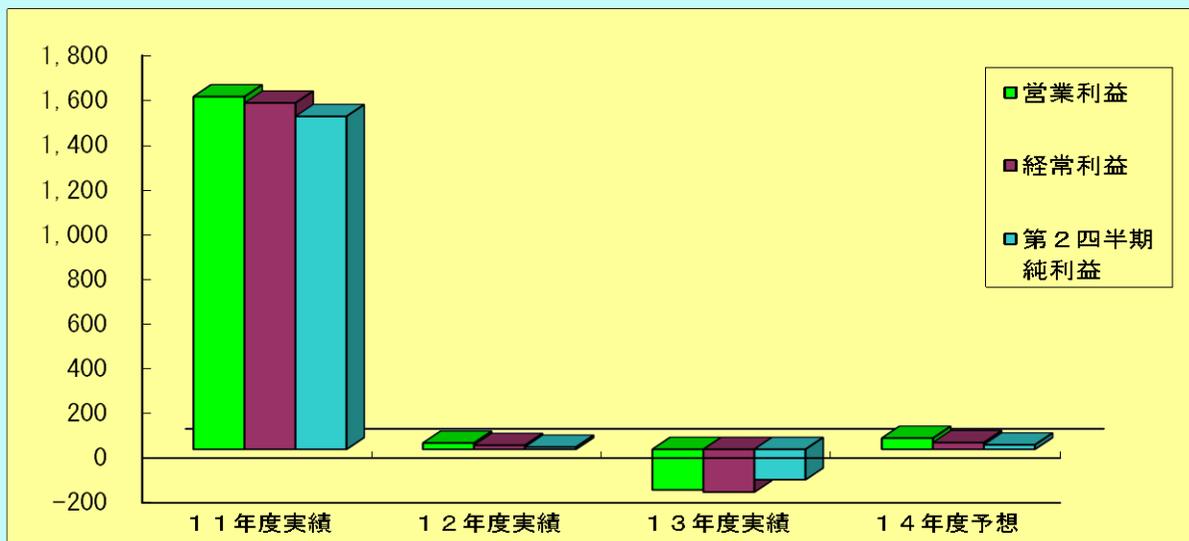
予想のポイント

2014年度におけるわが国の経済は、各種の政策効果等を背景に、緩やかな景気回復が期待されますが、その一方で、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動や新興国経済の減速懸念等の景気下振れリスクもあり、景気の先行きは予断を許さない状況で推移していくものと思われます。

このような経済環境の中、呼吸用保護具の需要は、原子力発電所関連に加え、環境問題や感染症対策、老朽化した社会インフラの改修等、全体としては緩やかに拡大していくものと思われます。このような中、引き続き新製品開発力の強化を図り、積極的できめ細かい販売活動に注力することで、2014年度の売上高は、前年度比ほぼ横ばいの92億円を見込んでいます。

2014年度 第2四半期の利益予想 (単位：百万円)

予想のポイント



2014年度第2四半期は、前第2四半期並みの売上高を、営業利益、経常利益、第2四半期純利益については、相応の黒字を維持するものと見込んでいます。

単位：百万円、小数点未満四捨五入

	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度予想
営業利益	1,576	28	△181	50
経常利益	1,548	18	△191	30
第2四半期純利益	1,488	10	△136	20

2014年度 通期の利益予想 (単位：百万円)

2014年度通期は、景気の先行きには不透明さはあるものの、原子力発電所関連の受注や積極的な新製品の拡販等により、営業利益、経常利益、当期純利益ともに増益を見込んでいます。

単位：百万円、小数点未満四捨五入

	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度予想
営業利益	1,603	173	201	270
経常利益	1,570	159	184	230
当期純利益	1,408	54	80	120

